

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 3月 25日

公表: 令和 5年 3月 31日

事業所名 ふるばキッズplus

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			十分な広さが確保されている
	2 職員の配置数は適切である	○			足りないと感じることもあるが、職員同士や他店舗で協力している
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		バリアフリー化はないが、視覚支援等を取り入れている	まだ個々にあった視覚支援が足りない部分がある為、個々の成長段階を踏まえて都度取り入れていく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		送迎後、毎日清掃を行っている	玩具を口の中に入れてしまう事がある為、こまめにピュラックスを使用し消毒を実施していく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		担当利用者様の相談員から事故報告書の評価をいただいたり、事故の改善点・スタッフの育成等の業務改善につなげている	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		現在オンラインにて外部研修や職場内研修を実施している	他の職員が受けた外部研修を職場研修の場で周知実施していく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		契約時に親御様からお子様の様子や困りごと、どういった支援を行っていくかの方向性を統一し親御様の想いをもとに作成を行っている	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		いつでも確認が出来るよう、個別ファイルとは別に個別支援計画書を一つにまとめてファイリングしている	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラム担当が職員の意見をまとめ、出たプログラム内容を組み合わせながら作成している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		職員間で話し合い固定化を防いでいる	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎後、事業所内で気になった点や、保護者からのお話の情報共有を行っている。	ヒヤリハットを継続し、シミュレーションを行う事で事故を未然に防ぐ取り組みを実施したり、明日は〇〇さんにどんな共通アプローチをかけていくか等明確なものにしていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ミーティングノートに記載している	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一度モニタリングを実施している。半年前とは様子は違う為、とても必要な場と認識している。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		現在コロナ禍という事で他事業所を含んだ会議は行っていないが、管理者メインが出席し可能であれば他職員一名も出席する。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		インスリン等の説明書きを共有している	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		送迎時に情報交換をしている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		モニタリングや送迎時に事業所での様子を伝え、ご家庭での様子や困り事等伺っている	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に管理者より行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		朝のミーティングや送迎後に職員間で情報共有を毎日行っている。	今後も確実にもれが無いように継続していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSで毎日掲載している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各種マニュアル作成済	全体で目に付く場所へ掲示しておく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に一度、避難所への避難訓練、月に一度避難訓練にまつわる学習をしている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		親御様に契約時、対応等細かく聞き周知している。	てんかんについて研修の場を設けている。今後も継続し、いざという時対応出来る力をどの職員も身に付けておく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		親御様から避けて欲しいアレルギーや食べ物を伝えられる為、徹底している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットの作成を行い、大きな事故を未然に防ぐよう対策を考えている。	事故シュミレーションも継続で取り組んでいく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約書に記載してある。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。